

OMC事務局 〒565 豊中市上新田 4-16-1-33 合原一夫 TEL06-833-9227
 広報編集局 〒573 枚方市三栗 1-18-20 前田茂夫 TEL0720-50-5781

平成8年10月(1996年) No. 370

東京アマチュア映像祭 参加体験記

去る9月29日(日)東京両国の江戸東京博物館ホールで、東京アマチュア映像連盟主催の”東京アマチュア映像祭”が開催された。私もコンテストに入賞の一隅を汚していたので出席させて戴いたが、その規模たるや大阪では想像もつかない大ききで、なんと朝の10時から夕方6時までというロングラン。参加した映像クラブは40団体。映写された作品は実に45本。観客数も述べ千人を超えるという大イベントだった。

上映する作品は各クラブからの推奨作品。つまり、コンクール方式の優劣で選ぶのではなく、クラブ単位で出品作を選び、それをクラブの代表作として送り出したもの。したがって、どの作品もクラブの面目がかかっているから見応えがある。40を超えるさまざまなジャンルの名作秀作に圧倒された。

プログラムの中ほどで、故小倉宝蔵氏の「サバンナに生きる」が上映されることになった。これは全国の話作、優秀作の中から選りすぐった作品を特別に上映する”この一本! 珠玉の名篇”という今年から設けられたコーナー。そのトップに小倉さんの作品が選ばれたのは我々にとって大変名誉なことであった。

映写の前に川上連盟会長のご挨拶があった。小倉氏はOMCと関西シネクラブの会長を務めていたが、昨年の合同フェスティバルに車椅子で出席し、

その映写を見届けて一週間後に亡くなった。大のコンテスト嫌いだった小倉さんの作品は東京ではだれも見た人がいない。これが最初で最後になるだろう。という紹介があって映写に入った。見覚えのあるシーンが写し出される。ラストの縞馬の感動的な出産シーンでは思わず涙ぐんでしまった。

休憩の時間になるとロビーは人々で溢れていた。東京だけでなく、全国各地から参加していることもあって、めったに会うこともない懐かしい顔をそこかしこで発見、お互いの近況やら音沙汰の途絶えた友人たちの消息を訊ねあい、尽きぬ談笑に時のたつのも忘れていた。

一年に一度くらいはこのような大規模の発表会が開催されることは大変結構なことと思う。またそこで旧知の人々との親交を暖めあうことも出来るのでその意義も大きい。だが集まってきた人達は私も含めて殆どが白髪まじりの老人。この先5年10年を経た時、果たして今と同じ顔ぶれが揃うかが問題だ。

私たちと同じ機材を使って創作活動をしている若い人も多いと聞く。しかし何故か我々のグループには入ってこないし、入ったとしても長続きしない。テレビを見て育ち、学校のサークルで素人ドラマに熱中した年代と、小型映画クラブの中で起承転結を勉強してきた我々とは、映像づくりの考え方が根本的に違うのだ。

8ミリ映画の衰退からすでに10年、アマチュア映像の世界はすっかり様相を変えた。近年のビデオ機器はデジタル化し、小型化が進み、量産で価格が下がればいっそう普及が促進されることは間違いない。そうなれば、新たに映像づくりを志す人が増える可能性も多い。今は老も若いも同じ目的を持って、一堂に会することのできる環境づくりが早急の課題だ。それにはどうするか。試行錯誤はあるだろうが、我々の持っているアマチュア映像の常識、それとアマチュア映像クラブの運営のあり方を変えていかねばならないのではないだろうか。

そんなことを考えながら東京を後にした。

(関 剛記)

◆9月例会作品短評

1. 初夏・白川郷

森 保信さん

7分

序盤は高原のロング、山の上からの俯瞰で爽やかな初夏の情景がよくでています。森さんの撮影技法は至って模範的で、いつ拝見してもソツのない画面づくりをされています。そのかわりドキッとするような、いわゆる冒険を試みた撮影場面もほとんどありません。ところがこの作品にエサを採る「かわせみ」のアップが出てきて、思わずドキッとさせられました。撮影の様をぜひ聞いておきたいと思っていたら、なんと他のビデオからの借りものとかで、がっかりです。写真撮影会、カメラマンの砲列などのシーンは入れない方がよかったかも知れません。

2. 吉野山 蛙とび

杉本 憲一さん

6分15秒

ユーモラスで珍しい行事。わかり易いナレーションで説明されています。ただカメラの位置が一定で、やや面白みに欠けたのが残念です。

3. 祭礼

江村 一郎さん

4分50秒

編集の常識にわずらわされない豪放無稽の絵づくりが江村さんの特色です。だんじりを囃し立てる女の子、移動撮影の露店、巫女の舞、ただそれらを無作為に並べてあるだけですが、迫力は十分にあります。アップが多いせいで、人の頭に遮られて先が見えないまま2秒ほど続くというシーンが2ヶ所ほどありました。手直しをお願いします。

4. 淀川花火祭

今井 羨美さん

3分50秒

平成十三花火大会を淀川の右岸から撮影されたのだそうです。花火を撮る時のホワイトバランスは、太陽光に設定するのが最も自然との経験談がありました。花火は被写体として難物です。映像と現場で実際に見るのとは大違い。あの迫力の元は体も振動するほどの大音響です。残念ながらカメラのマイクでは収録出来ません。

5. 自然の中では古いも若いも皆友達

越本吉太郎さん

9分40秒

フェスティバルに出品の作品で、奥さんがモデルがわり。夏の白馬村は若者でいっぱい。まるで新宿か六本木を歩いているようです。BGMも若者の歌を採用。コーラスに合わせて奥さんも歌い出すという底抜けに明るい作品。

6. 平野の印象

前田 茂夫さん

9分45秒

戦災にあわずに残った古い家並がつづく平野界隈の静かなたたずまい。それに大念仏寺の”おねり”の行事のカメラワークも見事で、久しぶりに見る秀作です。イントロのストップモーションに会場から異論がありましたが、

私はそれよりラストの処し方、つまり鐘のアップと菩薩さまが夕景にダブルことに少し問題があると思います。いきなり鐘をアップで出すよりも、夕景に鐘の音だけを重ねた方が自然だと思いますし、また浮き出る仏は作者の思い入れを観客に押しつけている風にもとれます。それは終りタイトルの”合掌”にも当てはまります。ナレーションの中で信仰の道について前田さんの想いを存分に語られているのですから、映像はさらりと締めくくった方が余韻が残ったのではないのでしょうか。

7. # (シャープ) の気分 西山 正博さん 5分50秒
軽快なリズムにのって二人の可愛い女の子が現れては消える不思議の世界。エフェクターの機能をフルに活用した、ビデオアートの逸品です。一寸真似の出来ないスペシャル・テクニック。いやー、おどろきました。

◆ 会費徴収についてお願い

いつもOMCの運営にご協力いただき、ありがとうございます。

10月は会費の徴収月になっていますので、よろしくお願ひします。

6ヶ月分6000円を収めて戴きますが、1年分前納も大歓迎ですのでよろしく。

11月と12月の例会日についてお知らせ

11月の第4土曜日は祝日にあたり、センターの夜間業務はありません。したがって例会は30日の第5土曜日に変更します。

12月例会は恒例により21日の第3土曜日になります。お間違いのないように。

月一度の楽しい例会です。会員の皆さん！是非ご出席ください。

次回の撮影会の場所、テーマについて皆さんの声をお聞かせ下さい。一泊でもかまいません。よろしくお願ひします。

(今月の担当：関 剛さん)